

2-1 庄内町で起きた自然災害

地震や火山噴火、大雨や台風、がけ崩れや地すべりなど、自然現象によって起きる災害を自然災害という。庄内町では今までに、どのような自然災害が起きているのだろう。

■立谷沢川上流の土砂災害

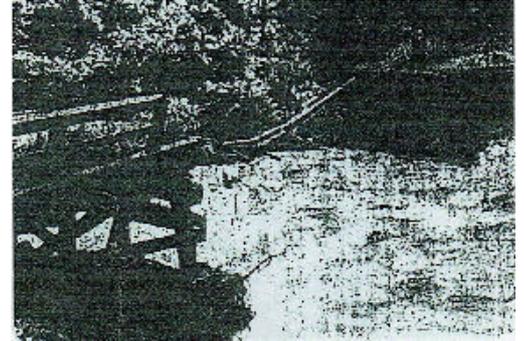
庄内町は、現在では大きな自然災害はほとんど起きていません。しかし少し前まで、立谷沢川の流域では、大雨が降ると土石流やがけ崩れなどの土砂災害(12ページが) 起こり、家や田畑が土砂でうまったり、橋が流されたりすることが何度もありました。また、地すべりもときどき起きていました。

最近、人びとが暮らす場所が被害を受けるような土砂災害は少なくなりましたが、平成23(2011)年には立谷沢川上流の濁沢で深層崩壊(山の斜面が深い部分から大きく崩れること)なども発生しています。

■立谷沢川下流や庄内平野の水害

立谷沢川の谷底平野や、最上川との合流点付近、最上川ぞいの狩川地区や余目地区、また京田川などでは、むかしから大雨が降ると川の水があふれ、田畑や家が水につかったりする水害が、何度も起きていました。

現在は、上流に砂防堰堤(16ページ)や、下流に堤防などが整備されたため、水害は少なくなっていますが、最近でも梅雨や台風の大雨で、ときどき被害が出ています。



昭和19(1944)年の豪雨(大雨)災害で、まん中からこわれた立川地区の新田橋



立谷沢川の上流、本沢流域の斜面の崩れ



平成5(1993)年の濁沢で起きたタキノ台の大規模地すべり



平成23(2011)年に濁沢で起きた地すべり性の深層崩壊

立谷沢川流域の龍神・水神の碑

立谷沢川の流域には、龍神や水神をまつた石碑や「ほこら」が数多く残っています。

龍神は、大雨のたびに荒れくる川や土石流のようすを、おそろしい龍にたとえたものと考えられます。人びとは龍神をまつことで、水害をはずめようとしたのでしょう。かつてこの谷で暮らしてきた人びとにとって、立谷沢川の上流から流れこむ土石流に立ち向かうことは困難だったのでしょう。

一方で水は、農業用水や飲み水として欠かせないもので、龍や蛇は水をつかさどる神様を表すものでもありました。特に庄内平野で盛んな米づくりにとっては、水が何より大切です。そこで雨が少ない年は、龍神や水神に雨を降らせてくれるよう祈ったのです。



鉢子の龍神供養塔

立谷沢川流域の龍神供養塔としては最も古く、江戸時代の天明5(1785)年に建てられた。

■そのほかの自然災害

山形県やその周辺で発生した地震で、20世紀以降に庄内町(平成17年までは余目町と立川町)が大きな被害を受けた地震としては、明治27(1894)年の庄内地震(マグニチュード7.0)があげられます。被害は酒田付近が多く、死者は726名にも及びました。また、昭和39(1964)年の新潟地震(マグニチュード7.5)でも、各地で家や道路・水田がこわれたり、山の斜面が崩れたりしました。

庄内町は「清川だし」や冬の北西風など年間を通じて強風が吹くため、風による農作物や建物の被害も少なくありません。

また、冬は豪雪(大雪)によって農業や鉄道、道路の施設などが被害を受けたり、時にはなだれによって人に被害が出たりすることもあります。特に月山周辺は、冬の豪雪と春の雪どけ水(融雪水)により地すべり(12ページ)が発生しやすい地域です。

冷害(日照不足や低温)や干ばつ(雨が降らないこと)で農作物がじゅうぶんに成長しなくなる被害もときどき発生しています。



明治27(1894)年の庄内地震で被災した酒田高等学校

(写真提供：国立科学博物館)

校舎がかたむき、正面入り口はこわれている。



昭和46年(1971)年7月 立川町片倉地内の災害

大雨で山の斜面が広い範囲にわたってとげん崩れた。

庄内町やその周辺に被害が出た自然災害

(明治以降に起きた自然災害のうち、特に大きなもの)

年	種類	被害のようす
明治12年 1879	大雨	立谷沢川で大洪水。耕地の過半が土砂にうまり、一帯は荒野に変わった。
明治14年 1881	大雨	立谷沢村で未曾有の大洪水。耕地の過半が決壊、埋没、荒野に変わった。
明治23年 1890	大雨	立谷沢川で大洪水。
明治27年 1894	地震	10月22日【庄内地震】 被害は酒田付近が最も大きく、山形、本荘にまで及んだ。死者726人、負傷者1,060人、家屋全壊3,858戸、半壊2,397戸、破損7,863戸、焼失2,148戸、余震多し。
明治29年 1896	地震	8月31日【陸羽地震】 被害は、屋根瓦の落下や石灯笼の転落、土蔵の壁の亀裂等て軽微だった。
大正15年 1926	大雨	清川大洪水。浸水家屋は村の半数に及ぶ。
昭和2年 1927	大雨	立谷沢川右岸約45m崩壊、河床が4.5mほど上昇する。
昭和19年 1944	大雨	7月大雨で最上川が増水し、堤防が決壊。余目地区では軒下まで浸水した家が多く、狩川地区でも3分の2の家が水につかる大被害となった。立谷沢村でも全戸の3分の2が浸水。
昭和20年 1945	大雪	前年末より今までにない大雪。4月には雪どけ水で最上川が増水し、堤防が決壊した。
昭和25年 1950	大雨	7月 立谷沢川があふれ、新田橋が流失した。
昭和27年 1952	大雨	立谷沢川大洪水。家屋浸水1,211戸、田畑流失埋没14町歩、田畑冠水129町歩、堤防決壊11件、橋梁流失2件、行方不明者1名、負傷者1名。
昭和33年 1958	大雨	7月28日 最上川、立谷沢川、京田川の氾濫。立川では床上浸水27戸、道路崩落2箇所、橋の流失4箇所、農作物に被害が生じた。
昭和39年 1964	地震	6月19日「新潟地震」 震度は鶴岡6、酒田5、新庄5、山形4。住宅や公共施設、道路、トンネルなどの破損、水田にひびが入って水が抜ける被害などがあつた。
昭和44年 1969	大雨	7月29日 狩川で1日あたり雨量86ミリを記録。道路決壊4箇所、橋決壊3箇所、堤防決壊14箇所、農地被害は235haに及ぶ4。
昭和46年 1971	大雨	7月16日 山形県中北部を中心に大雨災害。立川町では、集中豪雨による山腹崩壊で一家4人生き埋め、1名死亡。清川地区で土砂崩れにより線路埋没。
昭和62年 1987	大雨	7月 台風から変わった低気圧で梅雨前線が活発になり、庄内地方を中心に大雨。狩川で1日あたり雨量129mmを記録し、家屋の浸水、道路や公共施設の被害があつた。
昭和63年 1988	冷害	6月～9月 日照不足と低温が続き、米をはじめとする農作物に大きな被害が出た。
平成5年 1993	融雪	6月5日 濁沢左岸に幅約350m、崩壊土砂量576万立方メートルの大規模地すべり発生。一部土砂が立谷沢川に流下したが、直接的な被害は出なかった。
平成12年 2000	なだれ	12月26日 「月の沢発電所付近表層雪崩による作業員遭難」月の沢で表層なだれが発生し、月の沢発電所の作業員3名が死亡した。
平成20年 2008	大雨	8月 「平成20年8月14日から15日の庄内及び最上地方の大雨」 住宅、道路、農地や農業施設にひじょうに大きな被害が出た。
平成23年 2011	地震	3月 東北地方太平洋沖地震「東日本大震災」 上市市、中山町、尾花沢市、米沢市で震度5強、鶴岡市、酒田市、新庄市、村山市、天童市、東根市、南陽市ほか13市町村で5弱。各地で住家などの被害がでた。
平成23年 2011	融雪	5月 濁沢で幅340m、斜面長さ250m、崩壊土砂量190万立方メートルの深層崩壊。土砂は1.5kmまで一気に流れ下ったが、砂防堰堤がほとんど食い止めた。
平成25年 2013	大雨	7月 大雨により、堤防の決壊、斜面の崩壊などがあり、特に農地への土砂流入や浸水によって、農作物に大きな被害が出た。